令和７年（２０２５年）４月③

学校通信

和の光

宝塚市立西谷中学校

式辞

色鮮やかな花々が咲きほこり、春の香りが満ちあふれる季節になりました。本日このよき日に、宝塚市立西谷中学校の第７９回入学式を迎えられたこと、大変嬉しく思います。ただいま、呼名をいたしました１２名の新入生の皆さんご入学おめでとうございます。在校生ならびに教職員一同、心から皆さんの入学を歓迎いたします。

さて、皆さんは、中学校生活に期待と不安を感じながら今日を迎えたことと思います。
「勉強についていけるだろうか」「友だちはできるだろうか」「部活動で先輩たちとうまくやっていけるだろうか」いろいろな不安があることでしょう。しかし、心配はいりません。この西谷中学校には、よき先輩、よき先生、よき保護者、よき地域の方々がたくさんいます。
困った時には、一人で抱え込まず、遠慮なく周りの人に助けを求めてください。

ここで、入学にあたって皆さんに伝えたいことがあります。

まず一つ目です、「何よりも自分のことをよく知り、そして自分を大切にして下さい。」人には得意なこと、苦手なこと、好きなこと、嫌いなことがあります。これから始まる中学校生活には、教科の学習・部活動・友達関係・進路など、多くの出来事があります。思うように進めば問題はないのですが、うまくいかないことも多くあります。そんな時こそあるがままの自分を受け入れてください。自分のことをよく知り、大切にできる人は、他者のことも価値ある存在と尊重し、多様な人々と協働できます。是非、まず自分のことを大切にして下さい。

二つ目は、「学校は間違えたり失敗したりしてもいいところだ」ということです。様々なことに自分の意思でチャレンジしてください。様々な分野で活躍した方々の話している内容に共通することがあります。「何かに挑戦して、結果が失敗でも、そこから学ぶことの方が自分にとって大きい」ということです。間違えたり失敗したりすることからも、私たちは学ぶことがたくさんあります。ただ、気をつけないといけないことがあります。同じ失敗を繰り返さないこと。そして、失敗した時にやめてしまわないことです。もしも、自分の近くの人が失敗した時にはそのことを受け止めてあげてください。そうすれば失敗を恐れずに挑戦できる西谷中生になれると思います。

新入生のみなさん、勇気を持って自分の殻を破って様々なことにチャレンジしていきましょう。

最後になりますが、保護者の皆様、本日はお子様のご入学、誠におめでとうございます。少し前までは、小学校に通っていた我が子が、真新しい中学校の制服に身を包み、緊張した面持ちで入学する姿を見て、感慨もひとしおのことと存じます。本日より、私たち教職員が責任を持ってお子様をお預かりいたします。

現在、急激な社会の変化に伴い、さまざまな課題解決が迫られる教育現場ですが、本校では、人権尊重の精神のもと、「豊かな心、健やかな体、確かな学力」を身に付け、逞(たくま)しく社会を生き抜く生徒の育成を目指して教育を推進しています。本校教職員、一丸となってこれからの３年間、お子様の教育に当たって参りますので、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

簡単なご挨拶となりましたが、式辞といたします。

令和７年（２０２５年４月９日）
宝塚市立西谷中学校長
筒井　啓介

「教室はまちがうところだ」　　蒔田　晋治

教室はまちがうところだ みんなどしどし手を上げて
まちがった意見を 言おうじゃないか まちがった答えを 言おうじゃないか

まちがうことを おそれちゃいけない まちがったものを ワラっちゃいけない
まちがった意見を まちがった答えを　ああじゃあないか こうじゃあないかと
みんなで出しあい 言い合うなかで ほんとのものを 見つけていくのだ
そうしてみんなで 伸びていくのだ

いつも正しくまちがいのない答えをしなくちゃならんと思って
そういうとこだと思っているから　まちがうことがこわくてこわくて
手も上げないで小さくなって 黙りこくって時間がすぎる
しかたがないから先生だけが 勝手にしゃべって生徒はうわのそら
それじゃあちっとも伸びてはいけない

神様でさえまちがう世のなか
ましてこれから人間になろうとしている僕らがまちがったって
なにがおかしい あたりまえじゃないか

うつむきうつむき そうっと上げた手 はじめて上げた手 先生がさした
どきりと胸が大きく鳴って どきっどきっと体が燃えて
立ったとたんに忘れてしまった なんだかぼそぼそしゃべったけれども
なにを言ったか ちんぷんかんぷん 私はことりと座ってしまった

体がすうっと涼しくなって ああ言やあよかった こう言やあよかった
あとでいいこと浮かんでくるのに

それでいいのだ　いくどもいくども　おんなじことをくりかえすうちに
それからだんだんどきりがやんで 言いたいことが言えてくるのだ
はじめからうまいこと言えるはずないんだ　はじめから答えが当たるはずないんだ

なんどもなんども言ってるうちに まちがううちに
言いたいことの半分くらいは どうやらこうやら言えてくるのだ
そうしてたまには答えも当たる

まちがいだらけの僕らの教室 おそれちゃいけない　ワラッちゃいけない
安心して手を上げろ 安心してまちがえや まちがったってワラッたり
ばかにしたりおこったり そんなものはおりゃあせん

まちがったって誰かがよ なおしてくれるし教えてくれる
困ったときには　先生がない知恵しぼって教えるで そんな教室作ろうやあ

おまえへんだと言われたって あんたちがうと言われたって
そう思うだからしょうがない
だれかがかりにもワラッたら まちがうことがなぜわるい
まちがってることわかればよ 人が言おうが言うまいが おらあ自分であらためる
わからなけりゃあそのかわり 誰が言おうとこづこうと おらあ根性曲げねえだ

そんな教室作ろうやあ

新しい学年のスタートに際して、皆さんに紹介したい詩があります。それは、左記の『教室はまちがうところだ』 です。この詩の作者は蒔田晋治さんという教員（1945 年から 40 年間、公立小中学校に勤務）で、蒔田さんが中学２年生を担任した時に、学級通信で生徒に呼び掛けた詩だそうです。

かなり昔の詩ですが、今読んでも全くその通りだと思わせてくれる詩です。教室って間違っていい所ですよね？　神様だって間違えるのだから、そもそも発展途上の中学生が間違ったって当然のことですよね？　中学生に限らず、私も、間違ってばかりです。

今回、この詩を紹介したのは、「間違いを恐れず自分を出していこう、間違ってもいいのだよ」というメッセージを伝えたかったからです。でもそれ以上に、間違いを恐れずに自分を出していくというのは 個人の勇気だけの問題ではありません。 学級集団の質が問題になります。お互いの違いを認め合い尊重し合うとか、いろいろな考えを突き合わせて正解を追求する姿勢のある学級集団があって、初めて安心して間違えられる。**このクラスだったら間違ったって誰からも変に思われない。安心して間違えられる。そんなクラスを築いて欲しい。安心して手が挙げられて、安心して間違えられるクラスを西谷中学校の全クラスで目指して欲しい、**と思って紹介しました。

（４月９日）